

## 資 料 目 次

資料 1 企業，自治体への派遣予定数等調査

資料 2 学部新卒者の進学希望調査（参考）

資料 3 地域企業・自治体の課題

資料 4 福井県の施策等

( 白 紙 ペ ー ジ )

## 地域の企業や自治体からの派遣の見込み

平成30年11月までの個別折衝結果（対象：県内及び近隣の企業83社，11自治体）

### 1. 企業

- ① 派遣可能 28社
- ② 将来的に派遣検討 15社
- ③ 構想に賛同するが  
現時点での派遣困難 13社

### 2. 自治体

- ① 派遣可能 8自治体
- ② 派遣の方向で  
引き続き検討 3自治体

- 本大学院構想に賛同する企業・自治体は67組織（個別折衝を行った企業等の約7割）
- 企業28社，8自治体の合計36組織から本大学院への社員・職員派遣の回答があった。



上記36組織のうち，企業16社，6自治体から具体の派遣計画の提示有り（継続中）

企業等からの派遣計画と派遣希望年度（H31.1時点）

（単位：人）

| 区分  | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 企業  | 8     | 8     | 7     | 6     | 7     |
| 自治体 | 4     | 1     | 3     | 1     | 2     |
| 合計  | 12    | 9     | 10    | 7     | 9     |

( 白 紙 ペ ー ジ )

専門職大学院への派遣計画一覧【企業】

本一覧は、派遣可能との回答が得られている企業28社に対し、具体の派遣計画を照会し、その結果をとりまとめたものである。

| No. | 企業名  | 派遣計画  |       |       |       | 備考   |
|-----|------|-------|-------|-------|-------|--|
|     |      | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 |  |
| 1   | 企業1  | 若干名   |       |       |       | (派遣計画提出あり)                                 |
| 2   | 企業2  |       | 1     |       |       | (派遣計画提出あり)                                 |
| 3   | 企業3  |       |       | 1     |       | (派遣計画提出あり)                                 |
| 4   | 企業4  |       | 1     |       | 1     | (派遣計画提出あり)                                 |
| 5   | 企業5  |       |       |       |       | これからの期待する社員を派遣することになるが、スキルを身に付けて出ていく場合もある。 |
| 6   | 企業6  | 1     |       |       |       | (派遣計画提出あり)                                 |
| 7   | 企業7  |       |       |       |       | この大学院へ行きたいという意欲のある社員がいれば、会社として支援したい。       |
| 8   | 企業8  |       |       |       |       | 一人派遣し、間隔を空けてまた派遣するという感じだが、タイミングもある。        |
| 9   | 企業9  | 1     | 1     |       | 1     | (派遣計画提出あり)                                 |
| 10  | 企業10 |       |       |       |       | 内容が良ければ、思い切って派遣する。ユネスコなら、半年派遣もあり得る。        |
| 11  | 企業11 | 1     |       | 1     | 1     | (派遣計画提出あり)                                 |
| 12  | 企業12 |       |       | 1     |       | (派遣計画提出あり)                                 |
| 13  | 企業13 |       | 1     |       | 1     | (派遣計画提出あり)                                 |
| 14  | 企業14 |       |       |       |       | 候補者を決めて段取りしていく必要がある、見込み通りにいけば、派遣。          |

| No.      | 企業名  | 派遣計画  |       |       |       | 備考   |
|----------|------|-------|-------|-------|-------|--|
|          |      | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 |  |
| 15       | 企業15 |       | 1     |       | 1     | (派遣計画提出あり)                                     |
| 16       | 企業16 |       |       |       |       | 幹部候補生1, 2名を, 将来, この大学院に出したいとの構想を持っている。         |
| 17       | 企業17 | 1     | 1     | 1     | 1     | (派遣計画提出あり)                                     |
| 18       | 企業18 | 1     |       | 1     |       | (派遣計画提出あり)                                     |
| 19       | 企業19 |       |       |       |       | 派遣したい候補者は2名おり, 会社としては派遣の方向で検討し, 派遣できるように努力したい。 |
| 20       | 企業20 |       |       |       |       | あと2, 3年経つと会社にも余裕が出来, 1, 2名は派遣できると思う。           |
| 21       | 企業21 |       |       |       |       | この大学院に誰か是非行かせたいと思っており, 前向きに検討する。               |
| 22       | 企業22 |       |       |       |       | 大学院の正式設置が決まれば, 具体の派遣について検討する。                  |
| 23       | 企業23 | 1     | 1     | 1     | 1     | (派遣計画提出あり)                                     |
| 24       | 企業24 |       |       |       |       | 2020年4月に向け, 一人でも出せるよう, 社内で検討したい。               |
| 25       | 企業25 |       |       |       | 1     | (派遣計画提出あり)                                     |
| 26       | 企業26 |       |       |       |       | 将来の幹部候補生の育成のため数年に1人派遣することは検討できる。               |
| 27       | 企業27 | 1     | 1     | 1     | 1     | (派遣計画提出あり)                                     |
| 28       | 企業28 |       | 1     |       | 1     | (派遣計画提出あり)                                     |
| 企業派遣予定人数 |      | 8     | 8     | 7     | 6     | 7  |

- ・企業12は, 2020年でカウント。
- ・企業1の分は, カウントせず。

専門職大学院への派遣計画一覧【自治体】

本一覧は、派遣可能若しくは条件が整えば派遣可能との回答があった11自治体に対し、具体の派遣計画を照会し、取りまとめたものである。

| No.       | 自治体名  | 派遣計画  |       |       |       |       | 備考   |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
|           |       | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 |  |
| 1         | 自治体1  | 1     |       | 1     |       | 1     | (派遣計画提出あり)                                     |
| 2         | 自治体2  |       |       |       | 1     |       | (派遣計画提出あり)                                     |
| 3         | 自治体3  | 1     |       |       |       |       | (派遣計画提出あり)                                     |
| 4         | 自治体4  | 1     |       |       | 1     |       | (派遣計画提出あり)                                     |
| 5         | 自治体5  | 1     |       | 1     |       | 1     | (派遣計画提出あり)                                     |
| 6         | 自治体6  |       |       |       |       |       | 希望者は是非行かせてやりたい。                                |
| 7         | 自治体7  |       |       |       |       |       | 2023、2024年度辺りであれば対応は可能と考える。                    |
| 8         | 自治体8  |       | 1     |       |       |       | (派遣計画提出あり)                                     |
| 9         | 自治体9  |       |       |       |       |       | 国際的視点は外せないと思うが、市の事情としては、基盤固めの段階である。前向きには検討したい。 |
| 10        | 自治体10 |       |       |       |       |       | 派遣について、引き続き、協議したい。                             |
| 11        | 自治体11 |       |       |       |       |       | 職員から希望があり、どのような目的で行きたいか明確なビジョンがあれば派遣について検討する。  |
| 自治体派遣予定人数 |       | 4     | 1     | 3     | 1     | 2     | ・自治体2の派遣年は、2022年でカウント。                         |

|                    |    |   |    |   |   |
|--------------------|----|---|----|---|---|
| 企業・自治体<br>派遣予定人数合計 | 12 | 9 | 10 | 7 | 9 |
|--------------------|----|---|----|---|---|

( 白 紙 ペ ー ジ )



## 地域との協働による福井大学専門職大学院設置構想

1. 大学院の名称  
福井大学大学院国際地域研究科(仮称)＜専門職大学院＞
2. 修業年限及び入学定員  
修業年限2年，入学定員7名(予定)
3. 設置時期  
2020年4月(目標)
4. 育成する人材像  
グローバル化の進展に関連して地方の企業や自治体が抱える諸課題の解決に挑戦する優れたマネジメント・リーダーの育成を基本とし，そのために必要な国際的な視野と専門知識，事業の企画・運営に必要な実践的能力，及び語学力を伴う交渉力を備えた 人材を養成します。
5. 育成する高度専門職業人としての専門性  
(1) 国際的な視野の下で地域の企業や自治体の取組みの方向性を提起し，牽引するマネジメント・リーダーシップ  
(2) 事業の企画・運営に必要な専門知識と情報収集，活用能力  
(3) 積極的に外国人との交渉を進めるために必要な，異文化受容性，ストレス耐性，及びコミュニケーション能力
6. 社会人学生への配慮  
(1) 社会人が働きながら学べるよう，平日夜間・土曜開講，集中開講等を行います。  
(2) 1年短縮履修や3年長期履修も可能とします。
7. 専門職大学院をコアとした協働・課題解決型コンソーシアムの形成  
専門職大学院を核に，大学院に関わる産学官が一体となったコンソーシアムを形成し，組織的な語学・ビジネス等の研修機会の提供，外国人を含む人材の育成や企業の持続的な海外展開，地域でのSDGsの取り組み等の諸課題について，企画・実施や政策化に取り組みます。

(参考：企業，自治体への説明資料)

## 教育課程の方針

### 育成する人材像

グローバル化の進展に関連して地方の企業や自治体が抱える諸課題の解決に挑戦する優れたマネジメント・リーダーの育成を基本とし、そのために必要な国際的な視野と専門知識、事業の企画・運営に必要な実践的能力、及び語学力を伴う交渉力を備えた人材を養成する。

### 育成する高度専門職業人としての専門性

- 1) 国際的な視野の下で地域や自治体の取組みの方向性を提起し、牽引するマネジメント・リーダーシップ
- 2) 事業の企画・運営に必要な専門知識と情報収集、活用能力
- 3) 積極的に外国人との交渉を進めるために必要な、異文化受容性、コミュニケーション能力及びストレスコントロール力

## 入学者の受入の方針（アドミッション・ポリシー）

グローバル化の進展に関連して地方の企業や自治体が抱える諸課題の解決に挑戦する優れたマネジメント・リーダーを育成するため、下記の方針に基づいた人材を求めらる。

1. 地域や自己の所属する組織が直面する複雑な課題に、中核的な人材として主体的に取り組む意欲を有する人
2. 海外の諸地域や国際事情、および外国語に対する知的関心を持ち、積極的に情報収集を行う姿勢を有する人
3. 異なる文化、また異なる業種の人々との交流をいとわず、互いを尊重しながら議論を交わす資質を有する人
4. ストレートマスターの場合は、社会科学と異文化理解にある程度の素養を持ち、相応の語学力を有するとともに、上の1～3の態度・資質を有する人

## 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

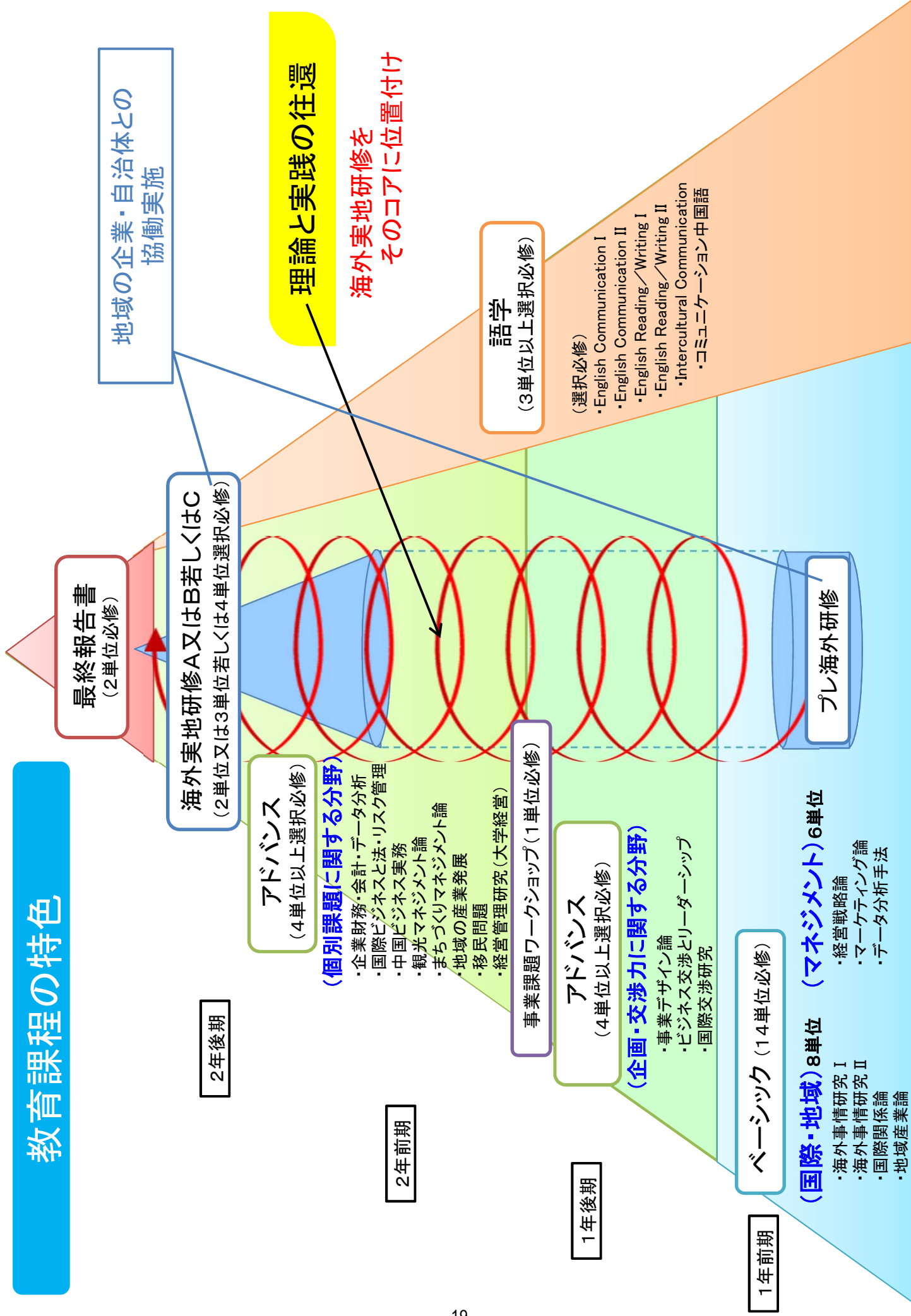
次の①から⑤を身につけた者に学位〔国際地域修士（専門職）〕を授与

- ① 地域や自己の所属する組織の課題に対して、国際的な視点も踏まえた解決策の提示を行う力
- ② 国や地域の内外を問わず、自己の活動の場において発揮される事業構想力
- ③ 問題を発見し、計画策定、事業拡大に取り組むために必要な専門知識と情報収集・情報活用能力
- ④ 事業計画の遂行に必要なリーダーシップ
- ⑤ 異文化感受性と多様な思考に対する受容性を備えたコミュニケーション能力とストレスコントロール力

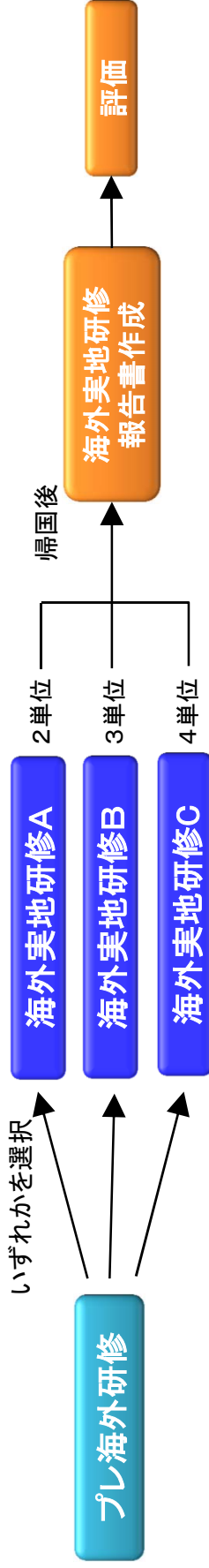
## 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

- A 国際的な視野の下に、顧客ニーズおよび対象地域の法・慣習や市場、資源に関する情報を把握し、分析する力の修得
- B 外国語によるコミュニケーション能力を含む対人交渉能力・人的ネットワーク形成能力の修得
- C 事業や組織のマネジメントに必要な専門知識の修得とその実務への応用
- D 批判的思考や創造的思考を通じて事業や企画を構想・展開できる力の修得
- E 海外実地研修を通じた国際感覚の醸成と各自の目的に応じた履修科目の体験的な修得、および総括

# 教育課程の特色



## 海外実地研修の詳細



(概要)

通常の授業での学習内容を、海外での事業経験と結び付けて理解することを意識させるために1年次前期に「プレ海外研修」を履修する。さらに学習内容を院生個々の問題意識に即して磨き上げるために2年次後期に「海外実地研修A」(2単位)、「海外実地研修B」(3単位)、「海外実地研修C」(4単位)を選択履修する。海外事業の体験的研修による国際的なビジネス感覚の修得、および調査活動やプロジェクト活動を通じた海外での主体的な課題解決の経験を主な目的とする。

## 「プレ海外研修」イメージ

(プレ海外研修の概要)

本研究科での科目の履修に着手する前に、海外の状況や海外事業を肌で感じるために、1年次前期に1週間程度、福井県内企業が進出する複数国の海外事業所等数カ所を見学などとする。これにより、海外での事業経験の浅い院生への学習の動機づけとなる。ある程度海外事業の経験のある院生にとっては、異業種での事業体験を得る機会となる。

### アジア複数国の見学・ヒアリング

<一般の院生>

海外での事業で考慮される諸事項を知ることが目的として、アジア2～3か国の進出事業所での各2時間程度の見学・ヒアリングツアー実施(教員がツアー・コンとして同行)

例: ベトナム(フクビ、日華、JETRO事務所) + 三谷産業、第一ビニール) ⇒ タイ(セーレン、福井鉄螺、県BBC or JETRO)  
⇒ カンボジア or マレーシア or シンガポール

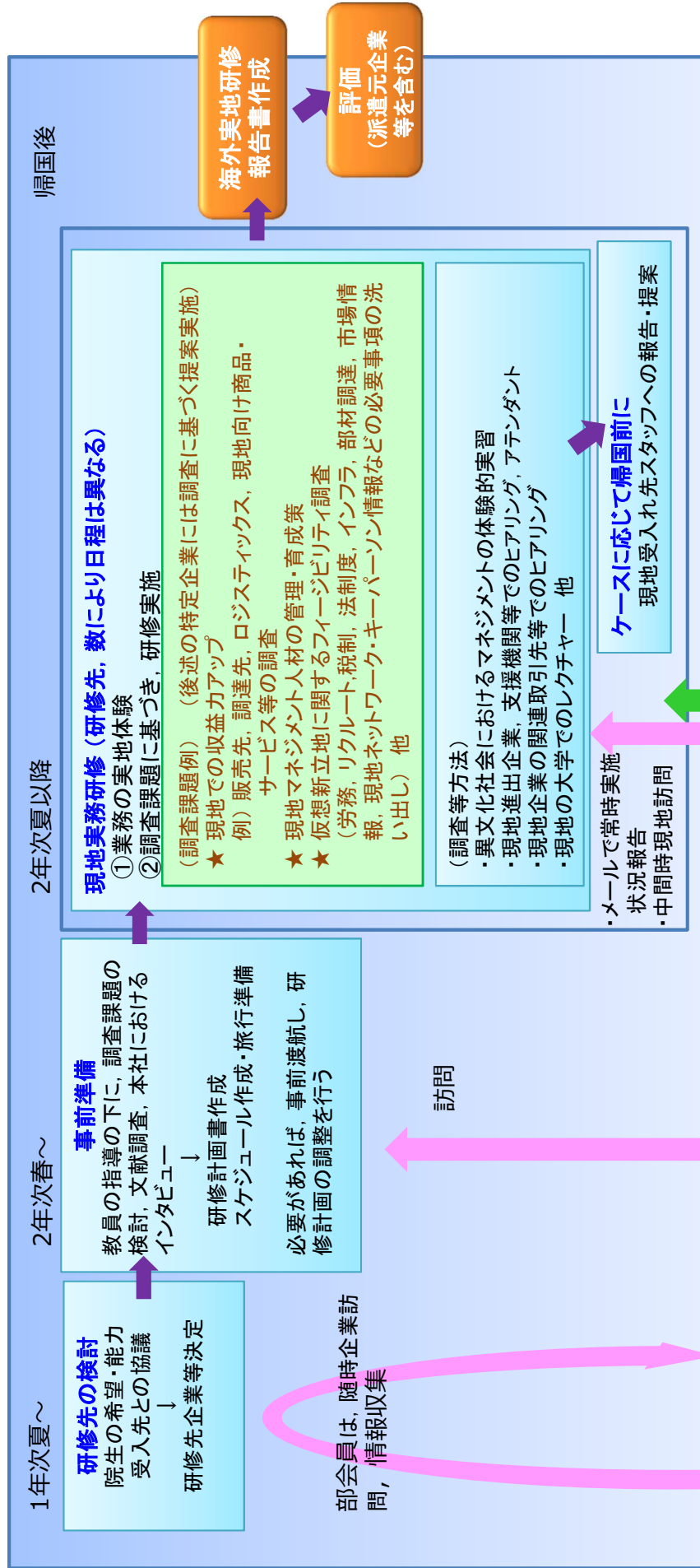
接 続

海外実地研修ABC

# 「海外実地研修A」イメージ

<概要>

学習成果を実地に即して振り返り、所属組織での事業展開に貢献できる能力を磨くために、2年次の夏季以降に3～4週間の海外での実地研修を行う。この研修では、福井県内企業の海外事業所や海外出先機関等において、1カ所ないし複数箇所での当該研修先や関連取引企業、政府系関係機関等で、①業務の体験、②院生が事前に設定した特定のテーマ(現地での市場開拓や事業所進出、外国人材のマネジメント、進出先での業績向上など)に即した調査のいずれか、または両方を実施する。



部会員は、随時企業訪問、情報収集

訪問

教員(うち1名を実施責任者兼コーディネーターとして配置)及び事務系の職員

## 実地研修コーディネーター部会

構成員: 実務家および研究者教員(8名程度)

(事務職員の参加)

- 業務:
- ①プレ研修の実施計画作成
  - ②院生の個別研修計画作成のサポート
  - ③研修実施状況の共有
  - ④企業訪問、情報収集、実施企業との連絡
  - ⑤指導教員(正・副)の選定

(学内の他の海外展開事業・組織等との連携も検討)

院生の求めに応じ支援

本研究科における現地支援機関(当該国の交流大学、留学生同窓会、可能なら現地のエージェントと期間契約)

全学的視点での海外支援拠点整備を将来的に検討  
 ...当該研究科にとっては、JETRO等を通じて現地企業等での研修を依頼することも可能になる。

## 「海外実地研修A」のパターン

### (パターン1) 特定企業とその取引先企業での業務体験と院生の設定した課題に関する調査・提案

(目的) 派遣国の文化・社会・商習慣の理解、海外ビでのビジネス手法の体得、習得した知識を活用した調査体験を通じて実務能力を高めるとともに、行動力、リスク回避力など長期の海外滞在に必要な能力を積み経験を積む。

#### (課題例)

- ・現地での収益力アップの調査・提案  
例) 販売先、調達先、ロジスティックス、現地向け商品・サービス等の調査・提案
- ・現地マネージメント人材の管理・育成策の調査・提案

<受入企業等>  
日本AMC(タイ),  
H&F(タイorマレーシア),  
SHINDO(仏or米国)

### (パターン2) 複数国滞在・複数企業訪問型研修 (オーダーメイド・タイプ)

(目的) 海外での生活・海外進出する際に考慮する事項について、モデル的体験を行うことで、自社の戦略構想を踏まえて、各国の制度情報、市場情報、人的ネットワーク情報などを獲得し、事業展開に備える。

進出先が複数国のオプションとなることも多いので、現地事情の異なる複数の国での進出の必要事項を学ぶ体験を積む。今後の市場規模を考えると、中国も訪問国に含める(上海周辺であれば県内企業も多い)。

現地事情、進出のための必要事項を学ぶ一方で、自分のテーマに即した実地での調査のため、現地進出企業、支援機関等でのヒアリング、もしくは実務体験を行う。

#### (課題例)

- ・複数国について進出プランを策定し、メリット・デメリット、進出条件等の比較分析
- ・ファイジビリティ調査に必要な事項(労務、リクルート、税制、法制度、インフラ、部材調達、市場情報、現地ネットワーク・キーパーソン情報等)

(研修内容)・・・以下の組合せ  
・現地事業所(2~3日)

<受入企業等(候補)> ベトナム(フクビ、日華、前田工織)、タイ(セーレン)、日華、福井銚螺、フクビ、日本AMC、バンコクコマツ、H&F)、マレーシア(H&F)、インドネシア(セーレン、日華)、フィリピン(日華、日本AMC)、インド(セーレン)、台湾(日華、松浦)

・同 (10日~2週間) <受入企業等(候補)> 米国(SHINDO)、仏・独(SHINDO)、中国(シャルマン、SHINDO)

・商談会、展示会(5~6日) <サポート機関> 福井県ビジネスサポートセンター(上海、バンコク)

・大学等でのレクチャー(1日) <受入大学> アサブシヨン大学他

## 「海外実地研修B」イメージ

### 海外実地研修B

#### ◆JICAでのインターンシップ ＜企業研修とは異質の体験1＞

##### 【概要】

主に海外経験がある程度ある院生を対象に、所属企業や自治体では経験できない海外で事業に取り組み体験を行い、新たな事業構築の際に必要な知識・経験とストレス耐性を身につける。具体的にはJICA 海外事務所において2か月間のインターンシップを行う。JICAの現地での各種支援プロジェクトの進捗管理を行う海外事務所員に同行し、パートナーである政府機関、企業、現地住民等、また技術支援員等との面談や打合せに参加することにより、海外での事業構築や運営のノウハウを体得する。

##### 【目的】

JICAとの連携によるプログラムの実地体験を通して、国際協力・開発途上国への興味や関心を高めるとともに、自己の職場でグローバル展開に資する力量や人間力を高める。

【期間】 2年次前期、2か月以上

##### 【研修構成】

- ①インターンシップ  
JICA各国海外事務所、2か月間、事務所での活動について事務所員に同行し、開発・支援プログラムの実際を体験し学ぶ。
- ②報告書の提出

JICAと大学の間で包括連携協定若しくは連携覚書を締結し、各人のインターンシップ内容に応じて、事業所毎に国際地域研究科とJICAが覚書を交わす方向でJICAと調整中

帰国後

海外実地研修報告書作成

## 「海外実地研修C」イメージ

### 海外実地研修C

#### ◆高度な経営・国際実務研修(ユネスコ研修) ＜企業研修とは異質の体験1＞

##### 【概要】

主に海外経験と相当の語学能力を持つ院生を対象に、所属企業や自治体では経験できない長期にわたる海外プロジェクトの運営に携わることで、新たな事業構築に取り組みためのチームワークとリーダーシップを身につける。

具体的にはユネスコの海外事務局において半年間のsponsored traineeship に取り組む。ユネスコのプロジェクトにtraineeとして参加する。相当の語学力を有することが前提となるが、多国籍チームの中で議論し、事業を進める経験を得ることで、multilateralな交渉に対応できる能力を身につける。

##### 【目的】

主に県内大手企業や自治体を対象に、地域、企業の国際化を進める上で、国際関係の仕組みを学び体験する中で(政策マイルドを培い)グローバルな事業活動を構築・展開する際の力量を高める。

【期間】 2年次前期、半年間  
(パリ又は各国拠点事務所)

##### 【研修構成】

- ①プロジェクトへの参加
- ②現地ナショナルチームとの共同調査の計画
- ③大学院教員との中間的ミーティング
- ④現地ナショナルチームとの共同調査の実施
- ⑤共同調査によるデータの収集、分析
- ⑥プロジェクトの報告

個別の派遣毎に協定及び契約を締結する方向で検討中

帰国後

海外実地研修報告書作成

# 専門職大学院の時間割(例)

## 入学前

▶ 講座開設による事前履修

1年  
前期  
4月  
-  
7月  
15週

## 在学中

| 区分                              | 月 | 火                            | 水 | 木                            | 金 | 土             | 日 |
|---------------------------------|---|------------------------------|---|------------------------------|---|---------------|---|
| 1限目<br>8:45-10:15               |   |                              |   |                              |   | 【隔週】<br>経営戦略論 |   |
| 2限目<br>10:30-12:00              |   |                              |   |                              |   | 【隔週】<br>経営戦略論 |   |
| 3限目<br>13:00-14:30              |   |                              |   |                              |   | 【隔週】<br>国際関係論 |   |
| 4限目<br>14:45-16:15              |   |                              |   |                              |   | 【隔週】<br>国際関係論 |   |
| 5限目<br>16:30-18:00              |   |                              |   |                              |   |               |   |
| 6限目<br>18:00-19:30              |   | English<br>Communication I   |   | English<br>Communication I   |   |               |   |
| 7限目<br>19:40-21:10              |   | English<br>Reading/Writing I |   | English<br>Reading/Writing I |   |               |   |
| ※「事業デザイン論」は、夏季休業<br>期間中に土曜・集中講義 |   |                              |   |                              |   |               |   |
| ※6月～7月頃、ブレ海外研修<br>(1週間程度)       |   |                              |   |                              |   |               |   |

1年  
後期  
10月  
-  
1月  
15週

| 区分  | 月 | 火                             | 水 | 木  | 金 | 土                 | 日                |
|---|---|-------------------------------|---|--|---|-------------------|------------------|
| 1限目<br>8:45-10:15   |   |                               |   |  |   | 【隔週】<br>海外事情研究 II | 【隔週】<br>データ分析手法  |
| 2限目<br>10:30-12:00  |   |                               |   |  |   | 【隔週】<br>海外事情研究 II | 【隔週】<br>データ分析手法  |
| 3限目<br>13:00-14:30  |   |                               |   |  |   | 【隔週】<br>国際交渉研究    | 【隔週】<br>マーケティング論 |
| 4限目<br>14:45-16:15  |   |                               |   |  |   | 【隔週】<br>国際交渉研究    | 【隔週】<br>マーケティング論 |
| 5限目<br>16:30-18:00  |   |                               |   |  |   |                   |                  |
| 6限目<br>18:00-19:30  |   | English<br>Communication II   |   | English<br>Communication II<br>/コミュニケーション中国語 |   |                   |                  |
| 7限目<br>19:40-21:10  |   | English<br>Reading/Writing II |   | English<br>Reading/Writing II                |   |                   |                  |
| ※「国際ビジネスと法・リスク管理」<br>「観光マネジメント論」,「事業課題<br>ワークショップ」は、春季休業期間<br>中に土曜・集中講義 |   |                               |   |  |   |                   |                  |

2年  
前期  
4月  
-  
7月  
15週

| 区分  | 月 | 火                              | 水 | 木        | 金 | 土                          | 日                         |
|---|---|--------------------------------|---|----------|---|----------------------------|---------------------------|
| 1限目<br>8:45-10:15                               |   |                                |   |          |   | 【隔週】<br>ビジネス交渉と<br>リーダーシップ | 【隔週】<br>企業財務・会計・<br>データ分析 |
| 2限目<br>10:30-12:00                              |   |                                |   |          |   | 【隔週】<br>ビジネス交渉と<br>リーダーシップ | 【隔週】<br>企業財務・会計・<br>データ分析 |
| 3限目<br>13:00-14:30                              |   |                                |   |          |   | 【隔週】<br>まちづくり<br>マネジメント論   | 【隔週】<br>地域の産業発展           |
| 4限目<br>14:45-16:15                              |   |                                |   |          |   | 【隔週】<br>まちづくり<br>マネジメント論   | 【隔週】<br>地域の産業発展           |
| 5限目<br>16:30-18:00                              |   |                                |   |          |   |                            |                           |
| 6限目<br>18:00-19:30                              |   | Intercultural<br>communication |   | 中国ビジネス実務 |   |                            |                           |
| 7限目<br>19:40-21:10                              |   |                                |   |          |   |                            |                           |
| ※「移民問題」,「経営管理研究(大学<br>経営)」は、夏季休業期間中に土曜・<br>集中講義 |   |                                |   |          |   |                            |                           |

2年  
後期

海外実地研修(1～6ヶ月)及び最終報告書作成

## 修了後

▶ 修了生及び派遣企業等  
に対するアフターケア

- 交流会
- 情報交換
- 連携事業

社会人が働きながら学べる  
よう、平日夜間・土曜開講,  
集中開講等を行う。

嶺南地域の大学院生は敦賀  
キャンパス等での履修も可  
(スカイプや  
テレビ会議システムを利用)



# 英語教育のイメージ (案)

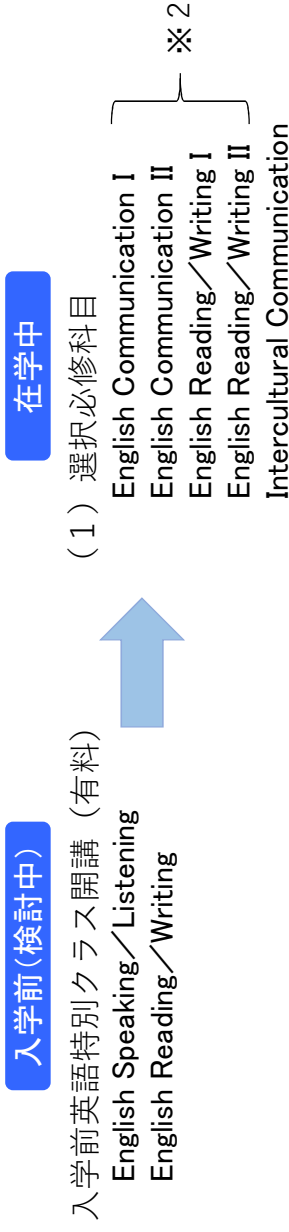
## 1 英語能力の水準の目安 ※1

| 大学院入学時                                  | 海外実地研修着手時                               | 大学院修了時                                  |
|---|---|---|
| TOEIC 450点以上<br>TOEFL 450点以上<br>CEFR A2 | TOEIC 550点以上<br>TOEFL 480点以上<br>CEFR B1 | TOEIC 600点以上<br>TOEFL 550点以上<br>CEFR B1 |

## 2 入試

- ▶ 海外／英会話に興味と勉強する意欲があり、目的意識を持って取り組む姿勢があるかを書類・面接で確認
- ▶ 入学にあたっての抱負とこれまでの実績について、英語でのプレゼンテーションを課す

## 3 履修方法



- ※1 在学中に、TOEIC等の外部テストを複数回受験する。  
 ※2 一定の英語能力を持つものは、既修得扱いとする。

## 4 海外実地研修着手時の水準の目安

|                | TOEIC   | TOEFL | CEFR |
|----------------|---------|-------|------|
| 海外実地研修A        | 550以上   | 480以上 | B1   |
| 海外実地研修B (JICA) | 550以上   | 480以上 | B1   |
| 海外実地研修C (ユネスコ) | 800-900 | 600以上 | C2   |

## 専門職大学院に係る入試ならびに必要経費について

### 1. 入学許可について（現在検討中）

- 1) 前年 10 月以降に団体推薦および一般選抜入試により入学許可者を決定します。
- 2) 団体（派遣元企業・自治体）推薦の場合は出願書類審査及び面接を行います。
- 3) 出願書類には、派遣元の推薦書と英語能力（TOEFL450 点程度以上）を示す証明書、または派遣元の作成した本人の英語力の実績を示す書類、本人の学習計画書などを含みます。

### 2. 授業料・入学料等の費用について

検定料：30,000 円

入学料：282,000 円

授業料：535,800 円×2 年（修業年限）

海外研修に係る渡航費・諸経費：30～100 万円 ※滞在期間，行き先による

合計：1,383,600 円 + 海外研修に係る費用

### 3. 支援について

#### 1) 福井県の制度の活用（法人向け）

平成 28 年度より，福井県が社会人の学び直しの推進のため「学び直し企業奨励金」を実施しています。本専門職大学院の設置に向け，現在，この制度について，福井県産業労働部労働政策課へ支給額や支援者数の更なる拡充を求め，検討願っているところです。

#### 2) 福井大学基金の活用（個人向け）

福井大学の学生の修学を支援し，次代を担う高度専門職業人及び地域創生を担う人物の育成に資することを目的に福井大学基金を創設しており，その基金を活用して支援を行う予定です。

#### 3) 厚生労働省の制度活用（個人，法人向け）

「専門実践教育訓練」として厚生労働大臣の指定を受けることが出来れば，一定の条件を満たす社会人学生及び派遣企業は教育訓練給付制度及び人材開発支援助成金の制度利用が可能となることから，将来的には，専門実践教育訓練の指定申請を行う予定です。